

物語文を読んでえらぼう

小6／物語を読んで、人物の心情や理由を1つえらびましょう

なまえ _____

ひづけ _____

1 書道展を よんで、賞状を見つめていたときの千夏的心情を1つえらびましょう。

千夏の書いた「希望」が、市の書道展で金賞に選ばれた。家族は大喜びだったが、千夏は賞状を見つめたまま、だまっていた。出品したのは、先生にすすめられた一枚。千夏が自分でいちばん気に入っていたのは、引き出しにしまったままの、もう一枚のほうだった。

- 1 すずめてくれた先生のおかげだと思い、感謝の気持ちでいっぱいだ。
- 2 自分がいちばん気に入った作品ではないので、すなおに喜べない。
- 3 金賞をとったことで、次の書道展が今から心配になっている。
- 4 思いがけない金賞に胸がいっぱいで、言葉にならない。

2 祖父の時計を よんで、拓也がきっぱり答えたのはなぜですか。1つえらびましょう。

亡くなった祖父の古い時計を、修理に出すかまよっていた拓也は、店の人から「まだ動きますよ」と言われた。とたんに、時計をのぞきこんでいた祖父の横顔が思い出され、拓也は「なおしてください」ときっぱり答えた。

- 1 まだ動くと聞いて、修理代が安くすむと思ったから。
- 2 まだ動くと聞いて、祖父にもらった日のことを思い出したから。
- 3 まだ動くと聞いて、祖父の口ぐせを思い出したから。
- 4 まだ動くと聞いて、時計をのぞく祖父の横顔を思い出したから。

3 班行動を よんで、帰りのバスでの翔の心情を1つえらびましょう。

修学旅行の班行動で、翔は地図係だった。ところが道をまちがえ、予定していたお寺には行けなかった。かわりに入った路地の小さな店で、班のみんなはせんべいを焼かせてもらい、夢中になった。帰りのバスで、翔は窓に額をつけたまま、こっそりにやりとした。

- 1 道をまちがえたが、かえって楽しい思い出になり喜んでいる。
- 2 次の班行動では、地図係をきちんとやりとげようと決めている。
- 3 道をまちがえたことを、先生にしかられないかと気にしている。
- 4 お寺に行けなかったことを、班のみんなにすまなく思っている。

物語文を読んでえらぼう

小6／物語を読んで、人物の心情や理由を1つえらびましょう

なまえ _____

ひづけ _____

1 姉のけっこん式を よんで、席にもどったときの優の心情を1つえらびましょう。

姉の けっこん式で、優は 花束を わたす 役だった。会場の だれもが 目を うるませる 中、優は 花束を わたし終えると、席に もどり、冷めた スープを 一気に 飲みほした。朝から きんちょうで、何も のどを 通らなかったのだ。

- 1 姉が家を出ていくさびしさがこみ上げ、なみだをこらえている。
- 2 会場の人々と同じように、感動で胸がいっぱいになっている。
- 3 大役を終えて気がゆるみ、急におなかがすいてきた。
- 4 花束のわたし方がうまくいったか、まだ気になっている。

2 引っこす前の日を よんで、小指を差し出した莉子の思いを1つえらびましょう。

引っこす 前の 日、幼なじみの 二人は いつもの 海辺に 立った。かける 言葉が 見つからず、ただ 波の 音を 聞いていた。やがて 陽菜が「手紙、絶対 書くから」と 言うと、莉子は だまって 小指を 差し出した。

- 1 はなれても、また会いに来ると約束したい思い。
- 2 はなれても、手紙の約束でつながっていたいという思い。
- 3 はなれても、いつかまた同じ海辺に来ると約束したい思い。
- 4 はなれても、今日のことはわすれないとちかう思い。

3 子ども会を よんで、この場面での慎の変化を1つえらびましょう。

子ども会で、慎は 一年生に こま回しを 教える ことになった。こまなら だれにも 負けない 自信が ある。ところが「どう やって 投げるの?」と 聞かれると、言葉が 出て こない。慎は 一年生を 待たせた まま、何度も 自分で 投げては、手首の 動きを じっと 見つめた。

- 1 得意なつもりだったが、教えようとして自分の投げ方を見直し始めた。
- 2 得意なつもりだったが、一年生のほうが上手だと気づいてあせり始めた。
- 3 めんどうに思っていたが、一年生に感心されて教えるのが楽しくなった。
- 4 めんどうに思っていたが、教えるうちに一年生がかわいく思えてきた。

物語文を読んでえらぼう

小6／物語を読んで、人物の心情や理由を1つえらびましょう

なまえ _____

ひづけ _____

1 寄せ書きを よんで、『かたをふるわせた』ときの先生の様子を1つえらびましょう。

退職する 先生が、クラスの 寄せ書きを受け取った。一人一人の言葉を ゆっくり 目で 追い、ある ところで 指を 止めると、口を 結んで かたを ふるわせた。そこには、いたずら好きの 健二の 字で「先生の 字は 読めなかったけど、話は ずっと 聞いてた」と あった。やがて 先生は ふき出し、「健二め、一本 とられたな」と 笑いこぼした。

- 1 字が読めないと書かれて、はずかしさをこらえていた。
- 2 ふざけた一行に、少し腹が立つのをこらえていた。
- 3 こみ上げてくるなみだを、生徒に見せまいとこらえていた。
- 4 こみ上げてくるおかしさを、なんとかこらえていた。

2 二つのペンケースを よんで、美月が古いほうを使い続けるのはなぜですか。1つえらびましょう。

美月はお年玉で新しいペンケースを買った。ところが 次の 朝、それを かばんの 外ポケットに 入れて みると、ファスナーが しまらない。美月は 小さく ため息を つき、新しい ほうを 机の 引き出しに しまうと、ファスナーの こわれかけた 古い ペンケースを、また ポケットに すべりこませた。

- 1 新しいほうは、使うのがもったいなく感じたから。
- 2 古いほうが、仲のよい友だちとおそろいだから。
- 3 新しいほうは、いつも入れている場所に入らなかったから。
- 4 古いほうに、小さいころからの思い出がつまっているから。

3 お弁当を よんで、のりの文字にこめた母の思いを1つえらびましょう。

昨日、玲は 夜おそくまで マンガを 読んで いた。今日の 昼、学校で 母の 作った 弁当の ふたを 開けると、ごはんの上に のりで「がんばれ」ではなく、「ねるな」と 書いて あった。午後は 苦手な 歴史の 授業だ。玲は あわてて ふたで 文字を かくし、あたりを 見回した。

- 1 夜ふかしした玲が、午後にいねむりしないよう注意したい。
- 2 夜おそくまで勉強していた玲を、ゆっくり休ませてあげたい。
- 3 夜ふかしした玲でも、元気に一日を乗り切れるよう、はげましたい。
- 4 夜ふかしした玲に、ごはんをしっかり食べて力をつけてほしい。